

## ◇参考資料 1 第 4 次江南市総合計画の成果と達成状況

第 4 次江南市総合計画では、市の将来像を実現するために先導的・重点的に実施する事業として、「マイタウン江南 2005」プロジェクトを推進してきました。各プロジェクトの成果と達成状況は、次のとおりです。

### 1. 人と自然にやさしい快適環境づくり【アメニティ江南—エコトピア構想】

地球環境の保全と豊かな自然生態系の中で快適に生活できる、持続可能で環境に配慮した循環系社会システムと新しいライフスタイルの確立に向け、身近な環境づくりに関する諸施策。

事業名	成果と達成状況
国営木曾三川公園尾張北部緑地江南拠点(花卉園芸植物園)の整備促進	平成 16 年度に管理棟が完成、平成 17 年度には(仮称)クリスタルフラワーの建築に着手されました。また、平成 14 年度から3年間、「花とみどりのパートナーシップづくり事業」を展開し、ワークショップ開催等の事業を通じて市民との協働による計画の策定や、開園後の管理運営面における市民との協力体制の確立等を目指した結果、平成 16 年 12 月にボランティア組織である「江南国営公園友の会」が発足しました。
「水と緑のネットワーク」による市内に残る貴重な自然環境の保全	北部・中央・南部拠点を結ぶ水と緑のネットワーク化を視野に入れ、地域再生計画で市北部の東から西を結ぶ遊歩道・サイクリングロード計画を具体化し、南部においては尾北自然歩道沿いの休憩施設や照明灯を設置し、遊歩道としての施設を充実させました。ネットワーク道周辺の緑化については、花いっぱい運動などにより、緑化の推進を検討しています。
自然環境復元事業	前野町の青木川に接した場所に、自然生態系に配慮した親水公園として平成 16 年度に「しみず公園」を供用開始しました。公園内にはビオトープ池を配し、自然環境復元を推進しました。また、青木川で外来種を排除する「河川植生のあり方を考える」取り組みに積極的に協力をし、自然環境復元に寄与しました。
自然と共感する市民の育成	五条川の清掃活動を呼びかけ、年1回行っているボランティアグループである「江南環境を良くする会」へゴミ袋の提供、積極的な参加で側面的支援を行っています。平成8年 10 月には「花と緑のフェスティバル」をすいとびあ江南において開催しました。
質の高い公共緑化・民有地緑化の推進	街路樹植栽を行い、道路における緑化に努め、公共施設の敷地内にも積極的に緑化を推進しました。また、生垣設置に対し、補助金を交付し、緑化木の配布を実施しています。花いっぱい運動の一環として、平成 14 年度から花いっぱいコンクールを実施しています。
うるおいのある都市景観の形成	年5回行っている違法広告物の撤去の強化を図りました。江南通線、江南岩倉線、愛岐南北線、一宮犬山線及び名古屋江南線には植栽柵や植栽帯を設け整備しました。特に、江南通線についてはインターロッキング舗装、景観に配慮した車止め、防護柵、植栽柵、植栽帯、歩道休憩施設などによりグレードアップを図り、景観整備に努めました。

事業名	成果と達成状況
下水道事業の推進	五条川右岸浄化センターは、平成13年4月に完成し、公共下水道は、平成14年8月に供用を開始しました。五条川右岸流域下水道事業の計画に沿った事業推進を関係市町と一体となって国などへ要望しています。平成5年度に事業認可を受けて布袋地区から整備を進め、現在の整備面積は263haとなり、市街化区域内の整備率は35.8%となっています。
1日中家族で楽しめるような身近な余暇空間の整備、身近な公園・広場の整備	平成18年度から木曾川左岸にサイクリングロード(遊歩道)の整備を始めています。蘇南公園については、コンビネーション遊具、駐車場、多目的広場、多目的グラウンド、園路などを整備し、平成17年度末の供用開始面積は84.8%になります。そのほか、飛高栄公園、古知野本町小公園、五明公園、高屋後山公園、高屋西里公園、しみず公園、曾本小公園を整備しました。
ごみのリサイクルやごみの分別収集の徹底などごみ減量化・再資源化対策の推進	平成10年2月より、ごみ減量「57運動」を展開し、各地区での説明会、施設見学、講演会開催等によりごみ減量、分別徹底の指導を行っています。平成12年4月に買い物袋の無料配布をし、買い物袋持参運動を推進しています。平成15年5月からはボランティア分別指導員の養成講座を開設しています。平成16年3月には、循環型社会の形成、ごみの適正処理の推進に向け「ごみ処理基本計画」(改訂版)を策定しました。
水の循環系の再生(保水能力のある地域づくり)	布袋中学校、古知野北小学校、宮田小学校に雨水貯留施設を設置しました。個人住宅の雨水貯留浸透枳については平成13年度より浸透枳の補助額を15,000円から20,000円に増額し普及を図っています。
“農”の多面的機能に着目した農地の有効利用	農地の荒廃防止のため、また優良農地として一層の有効利用を図るために、利用権設定による農地の流動化を推進し、45人の認定農業者を対象に農地の利用集積を図りました。市民の農業や自然とのふれあいの場を求める声の高まりに対応するため、新たに市民菜園2か所1,751㎡を開設し、農地の有効利用を推進しました。

## 2. 生きがいと安心の社会基盤づくり【いきいき江南—ウェルネス構想】

生涯にわたって心身ともに健康で生きがいをもって豊かに暮らせる、助け合いとふれあいのある地域社会の形成に向け、保健・医療・福祉に関する諸施策。

事業名	成果と達成状況
保健・医療・福祉の相互連携による総合的な保健・福祉施策の推進	介護保険制度が開始され、現在は介護予防を重視した地域支援事業、住み慣れた地域で継続して生活するための地域密着型サービスや介護予防サービス、介護サービスを受けることにより、保健・医療・福祉が一体となったケアプランに基づいたきめ細やかなサービスを受け、豊かで健やかな生活が営めるよう生活支援を図っています。

事業名	成果と達成状況
民間施設との連携強化による福祉ゾーンの整備	この地区には、社会福祉法人「ときわ会」が運営する知的障害者通所授産施設「ときわ作業所」及び知的障害者入所更正施設「ふじの木園」が設置されています。また、市が設置整備しました身体障害者デイサービス事業を実施している在宅障害者デイサービス施設「あゆみ」及び心身障害者小規模授産施設については、他施設との連携による効果的な運営を図るため、社会福祉法人「ときわ会」に運営委託をしています。さらに、平成16年9月には、社会福祉法人「くるみの里福祉会」による身体障害者通所授産施設「くるみの里」が開所し、身体障害者及び知的障害者のための関係施設が整備され、障害者の自立支援に努めています。また、介護老人福祉施設3か所、介護老人保健施設1か所、認知症対応型共同生活介護1か所、軽費老人ホーム(ケアハウス)1か所が設置されており、地域住民と合同の盆踊り大会・運動会等を通じ交流を図っています。
人にやさしい街づくりの展開	「江南市の人にやさしい街づくり基本計画及び障害者計画」を策定し、老人福祉センター(中央コミュニティ・センター)、市役所本庁舎、保健センター、休日急病診療所、市民文化会館を、高齢者・障害者などが利用しやすい施設に改修しました。新たに建設した建物については、県条例の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合した施設の建設に努めました。既存の公園については、中央公園の芝生広場や東屋、便所にスロープを設置して段差を解消しました。また、民間の既存建物、新築建物についても、県条例に適合した施設となるよう指導に努めました。要介護高齢者が在宅で生活できるようリフォームヘルパーの相談窓口を開設し、住宅改修の支援を行っています。
生きがいがづくりや健康づくりの推進	健康づくり、生きがいがづくり、仲間づくりを目的に高齢者教室を55回開催し、延べ10,399人が出席しました。「健康フェスティバル」を開催し、市民の健康づくりに努めています。平成15年度に、平成16年度から22年度までの計画期間である健康日本21こうなん計画を策定しました。
世代間交流の推進とその場づくり	地域の高齢者が生活文化、生活技能を生かした地域活動として小学校の児童と一っしょに米作り等を行うことにより世代間交流を図っています。
子育て支援事業の推進	子育て支援センターを開設し、子育てに関する相談、機関紙の発行等による情報提供、ほほえみ広場の開催、子育てサークルの育成、保育園・保健センター等関係機関との連携等の事業を実施しています。江南市児童手当の支給要件について、従来は、就学前の児童を4人以上養育している保護者に支給していましたが、平成13年4月より就学前児童を3人以上養育している保護者に支給することとし、制度改正を行いました。
豊かな心を育てる教育の推進	各小中学校では、総合的な学習の時間や学校行事を中心に、体験学習等を通して、地域住民との交流を図ったり、自然に親しむ活動を取り入れたりしています。
生涯スポーツの推進	各小学校でコミュニティ・スポーツ祭を実施しています。健康教室として「エアロビクス教室」、軽スポーツ体験教室として「フライング・ディスクゴルフ教室」、また各小学校においてふれあいスポーツを開催しています。

### 3. 賑わいと魅力あふれる都市拠点づくり【アクティブ江南—ツインコア構想】

本市の都市機能の向上を図るため、江南駅周辺地区を本市・尾張北部地域の都市核として、布袋駅周辺地区を本市のサブ的な都市核として2つの核を位置付け、都市拠点整備に関する諸施策。

事業名	成果と達成状況
鉄道高架事業の推進	<p>布袋駅付近については、平成9年度から鉄道仮線路用地の取得を開始し、ほぼ終了しています。平成16年度には都市計画道路北尾張中央道(国道155号)の鉄道交差構造と幅員23mから30mへの変更及び都市計画道路布袋駅線の東への延伸と駅前広場の都市計画変更告示が県によってなされました。また、県において従来の鉄道高架計画を確認する概略設計が名古屋鉄道(株)との協議のうえ実施され、平成17年3月その概略設計に基づく基本的事項の確認を行いました。平成17年7月には、平成16年度に作成された概略設計を基に、市議会、布袋地区鉄道高架・街づくり協議会等へ説明を行うとともに、地元住民の方を対象に説明会を開き、調整を行いました。さらに、平成17・18年度で名鉄が事業実施に向けた詳細設計を行っています。</p> <p>江南駅付近については、平成15年3月に策定した江南市中心市街地活性化基本計画において長期的な事業と位置づけ、早急に必要なバリアフリー化等の交通環境の改善に向けた駅周辺施設の整備を先行することとしています。</p>
江南・布袋両駅東西の駅前広場の整備	<p>江南駅については、平成16年度に江南駅の橋上化も視野に入れた江南駅周辺交通環境改善計画を策定し、江南市の表玄関にふさわしい駅前となるよう種々の問題について調査・検討を行いました。平成17年度以降も江南駅東西の駅前広場の整備について、調査・検討を行うとともに関係機関・団体との協議を行いました。しかし、駅のバリアフリー化については交通バリアフリー法への対応や市民の強い要請からエレベーターの早期設置が求められているので、橋上駅化は先送りとし、名鉄が実施するエレベーター設置に向け検討を進めています。</p> <p>布袋駅については、平成16年度には鉄道高架化事業の進捗のため布袋駅線と布袋駅東線とをつなぐ都市計画変更に伴い、布袋駅東駅前広場を3,000㎡から2,300㎡に変更しました。布袋駅東西駅前広場の整備は、鉄道高架化事業の進捗に合わせて実施しますが、布袋駅西駅前広場は、江南布袋南部土地区画整理事業の中で、布袋駅東駅前広場は、駅東地区再開発事業や布袋駅線(県道西之島江南線)整備と調整をとり実施します。</p>
江南布袋南部土地区画整理事業の推進	<p>布袋南部土地区画整理事業においては、平成8年3月に事業計画決定をし、平成13年1月に仮換地指定を行い、以降、物件移転、区画道路の築造等事業の執行に努め、現在の事業進捗状況は平成17年度末で、建物移転が全建物移転戸数183軒中78軒で、約43%移転が完了しました。今後は本事業計画完了年度、平成22年度の完了を目指し、効率的な物件移転を図るなど、事業執行に努めています。</p>

事業名	成果と達成状況
布袋南部市街地再開発事業の推進	<p>布袋南部市街地再開発事業については、社会情勢の変化によるディベロッパー(土地開発業者)の撤退により準備組合が解散し、事業は終息しています。しかし、平成 15 年度には中心市街地活性化基本計画で想定される事業のうち実施可能なソフト事業である、布袋春・夏まつりの支援、布袋大仏のライトアップなどの開催、街の情報やイベントの PR などを行う広報紙の発行をワークショップの参加者を中心とした地元住民団体(ほていコミュニティ協議会)が実施し始めました。平成 16 年度から国の「まちづくり交付金」制度を活用し、布袋南部土地区画整理事業を中心に公共施設の整備と密集老朽住宅を解消し、駅周辺(交通結節点)の改善と安心・安全な生活環境を確保するため布袋地区都市再生整備事業を行っています。また、ほていコミュニティ協議会が正式に発足したことから、市はまちづくり交付金を利用して、組織強化や行動計画の助長を図るためアドバイザーを派遣して啓発研修活動を実施しています。</p>
布袋駅東部における土地区画整理事業の具体化	<p>布袋駅東地区については、土地区画整理事業の実施を条件とした市街化区域編入への特定保留地区の指定を、平成 11 年3月に取り止めたため具体的な目途が立っていません。しかし、平成 17 年3月に駅東地区の工場跡地等の低未利用地(2ha)において地権者の集まりにより布袋駅東地区再開発研究会が発足され、市は鉄道高架化事業に合わせて駅付近としてふさわしい市街地の形成を図るため平成 18 年度からまちづくり交付金を利用して同研究会を支援し、再開発事業の促進をしています。</p>
江南・布袋両駅周辺の商業など都市機能の集積と都市景観整備	<p>布袋駅については鉄道高架化事業、土地区画整理事業、駅東再開発事業などに合わせて、交通拠点としての機能や景観を考慮して駅前広場の整備を行う予定であり、平成 18 年度にまちづくり交付金を利用して布袋駅付近交通拠点基本計画調査を行っております。江南駅については、江南駅周辺交通環境改善計画を基本として、さらに調査・検討を進め地元や関係機関等の調整を取りながら整備をしていきます。</p>

#### 4. 交流と文化創造の拠点・人づくり【クリエイティブ江南—インテリジェンス構想】

市民のゆとりと自己実現の充足のため、既存の拠点的施設や「武功夜話」といった地域資源を生かし、市民がこころ豊かに暮らすことのできる社会環境の整備と新たな市民文化の形成に関する諸施策。

事業名	成果と達成状況
新図書館の建設	<p>平成 15 年に策定された中心市街地活性化基本計画の中で、新図書館をまちづくりの拠点公共施設として位置づける方針が示されました。しかし、平成 17 年3月に、これまでの図書館建設計画を白紙に戻し、今後の図書館のあり方について様々な角度から検討しています。</p>
生涯学習総合拠点の整備と生涯学習推進体制の確立	<p>平成 14 年 3 月に江南市生涯学習基本計画を策定しました。</p>

事業名	成果と達成状況
自主的な市民活動の支援	市内 3 公民館を、自主的なサークルやグループの活動拠点とするとともに、公民館講座受講後のサークルの育成、自主グループづくりの指導、助言、情報提供を行いました。平成 15 年から生涯学習講師人材バンク登録を開始し、平成 18 年 3 月までに 120 人、24 団体の登録がありました。また、平成 16 年 7 月に江南市体験活動・ボランティア活動支援センターを設置しました。
魅力ある企画による文化事業の推進	市民文化の向上を図るため、優れた芸術文化を鑑賞できる自主文化事業を実施しました。また、市民の皆さんなどが直接参加できる、お昼のふれあい土曜コンサートを実施しました。
「武功夜話」によるふるさとづくり	「武功夜話講演会」「武功夜話セミナー」を実施し、市民文化として定着化を図りました。
郷土学習の推進	「生駒家文書展」などの郷土に関する企画展を 5 回開催し、旧家に伝わる貴重な資料を公開しました。また、市内旧家の古文書の解読・研究、中学生歴史教室、小中学校への出張講座及び一般市民向けの出前講座を行いました。
地域資源を生かした地域内交流・地域間交流の促進	徳島藩祖の蜂須賀家政が、江南にゆかりがあるため、藤まつりや七夕まつりに阿波おどりを踊りました。また、徳島阿波おどりキャラバン隊の招致、徳島阿波おどりバスツアー（H14～H16）の実施などを行って、市民交流を続けました。
国際交流・国際平和の推進	市民の国際理解・草の根国際交流を目指し、江南市国際交流協会が行う日本語教室・交流フェスティバルなどの事業を支援しました。平成 17 年に開催された愛知万博で江南市のフレンドシップ事業の相手国となった、ブルキナファソとミクロネシア連邦との交流を進め、ブルキナファソへ消防自動車 4 台、ミクロネシア連邦へ大型バス 1 台の寄贈を行うとともに、ミクロネシア連邦へ市民親善ツアーで訪れるなど、相手国との交流を深めました。また、平和事業としては原爆パネル展を市民文化会館、市役所、すいとびあ江南で開催しています。このパネル展には、ユニセフやJICA のパネル等も展示しました。また、平成 14 年度から戦争・原爆の恐ろしさや平和の尊さを訴えるため朗読劇を上演しています。

## 5. 安全でスムーズな交通ネットワークづくり【らくらく江南—ハイアクセシビリティ構想】

都市の機能を十分に発揮させ、市民生活の安全性・利便性・快適性を高めるために、交通網の整備により市内の交通を円滑にする、道路交通、公共交通の整備に関する諸施策。

事業名	成果と達成状況
広域幹線道路(国道 155 号など)の早期実現	北尾張中央道(国道 155 号)について、平成 16 年に鉄道との交差構造を道路嵩上げ方式から平面方式へ変更するとともに、計画幅員を 23m から 30m に変更しました。

事業名	成果と達成状況
都市骨格道路網(市内幹線道路網、特に環状線)の整備	宮田木賀線については全線が完了しました。上奈良千秋線は1,107m(59.9%)、江南小牧線は1,659m(86.6%)、小杵山尻線は2,732m(91.3%)が完成し、全路線の進捗率は91.6%です。
駅前広場の整備と駅前広場へのアクセスの整備	江南駅については、江南駅周辺交通環境改善計画を策定し、布袋駅線及び布袋駅東線については、布袋駅への接近性、駅周辺への利便性の向上などから2路線を結合し、布袋駅線を東へ延伸する形へ都市計画変更を行いました。
鉄道高架事業の推進	平成9年には愛知県との間で、負担割合(県:0.735、市:0.265)等を定めた覚書を締結しました。また、鉄道仮線用地を取得しました。平成16年度には、愛知県において名古屋鉄道(株)との協議の上、概略設計が実施され、それを基に、地元関係者に説明会を開きました。また、県において平成17・18年で詳細設計が行われました。
木曾川の架橋事業推進による隣接市町とのアクセスの向上	小網橋の架け替については、平成15年度に着手し、18年度に完成しました。また、新愛岐大橋については、中濃、各務原、尾張北部連絡幹線道路協議会を通じ早期着手できるよう国・県に働きかけました。
人にやさしい道づくり、福祉の道の推進	江南通線においては、歩道のセミマウント施工等を実施するとともに、歩道休憩施設等の設置及び道路緑化を実施しました。平成17年度には市役所から江南駅までの間で、障害者誘導ブロックを設置し、江南岩倉線、木曾川古知野線についても、景観と安全性に配慮した、人にやさしい道路整備を行いました。(特定ルート全延長2.8km中0.4kmを整備しました)
バス路線網の拡充と鉄道の輸送力の充実	バス路線や近隣市町の主要地への広域バス路線の維持拡大を関係機関へ要望しました。また、毎年度、尾北地区広域交通網対策連絡協議会を通じて、名鉄や中部運輸局等関係機関に要望しています。
公共交通機関における高齢者・障害者対応の要望	公共輸送機関へ高齢者・障害者に利用しやすい乗り場・車両の改善などの対応を要望し、名鉄バスに低床バスが導入されました。また、平成14年1月からコミュニティ・タクシーの運行を試行し、平成16年10月から本格運行を開始しました。
福祉ゾーンへの交通アクセスの整備	江南駅から西へ延びる木曾川古知野線1.1kmを整備しました。また、平成16年10月からコミュニティ・タクシーの本格運行に伴い老人福祉センターを経由しています。